ご支援ありがとうございます

寄付・寄贈・協力者、団体名

（2017年6月～11月現在　日付順　敬称略）

〇寄付者

谷村徳幸、新喜昭、鈴木和子、小柳伸顕、丸山純、服部邦繁、村田充子、平野良子、丹羽光、橘幸子、金貞義、小田原緑、日本基督教団水口教会、岩浅武久、移川早苗、皆川学、宮山博、高田昭子

〇賛助会費

川崎正明、河口陽子、番場友子、前原喜久雄、菅原裕治・真美、山田真、原宝・直呼、小林昭博、町田恵子、吉井景子、坂田孝二、小西弘泰、桐村剛、水谷保孝、坂田孝二、須郷敏子、冨樫勝彦

〇寄贈者、協力者

茗井香保里、鈴木誠一郎、冨樫勝彦、岡田益五朗、兼杉義之、鍛冶真起、廣澤章光、小澤祥章、長谷川貞男、戸恒和夫、鹿倉真理、及川勲、中山康夫、中村光衡、長尾吉彦、丸山純、桜田史子

寄付のお願い

「羽生の杜」は皆さまの寄付によって支えられております。すべての団体においていえることですが経費のなかで一番重くのしかかってくるものといえば家賃と人件費です。私どもの法人は現時点でその固定的負担は一切ありません。経費の大半は活動を推進するための広報宣伝費、通信費、事務用品費などで占められてます。イベントの協力者や講座などに関しても交通費のみで基本的には無償に近いボランティアとして関わっていただいております。感謝の限りです。そうは言っても活動を活発に実施すればそれだけ経費がかさむことは否めません。森の整備などについても相当の経済的負荷がかかってきます。

賛助会員としてご協力いただいている方々も増えておりますが、安定した維持を確保するためにはより多くの賛助会員の協力が得られれば計画的な運営が可能になります。どうぞよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

郵便振替口座：00130-0-419749
特定非営利活動法人　羽生の杜

● 賛助会員の年会費
個人　一口　年／　5，000円（何口でも可）
法人　一口　年／10，000円（何口でも可）

2018年4月より開始の「子どもたちの学習支援及び子ども食堂のためのボランティアを募ってます！」

①学習支援のための講師（小～高校まで対応）
②子ども食堂のためのスタッフ　資格の有無にかかわらず協力いただける方。調理師や衛生管理士などなどの資格のある方
③運営のためのスタッフ（パソコンでの事務管理、雑用など）ご協力いただける方々のご連絡をお待ちします。連絡は下記のメール及び電話にてお願いいたします。（田村）

特定非営利活動法人 羽生の杜
〒348-0043 羽生市桑崎 1331-2　TEL & FAX：048-538-4585
Mail：tamura@hanyunomori.org　URL：www.nanyunomori.org

羽生の杜はいま

ＮＰＯ法人羽生の杜 理事長　田村信征

１、講座はカルチャースクールなのか？

2017年4月より「おいでよ！羽生の杜」と銘打って「講座」を開催してきました。4月～7月までを前期講座とし7コースを、9月から3月までを後期講座として8コースのメニューを準備して現在継続中です。後期講座のメニューをタイトルだけ記しますと①親子体操（受講者ゼロで休講）、②俳句、③連句、④ジャズボーカル、⑤陶芸、⑥吹奏楽、⑦パズル、⑧写真となります。なに？これってどこかでもやっているカルチャースクールですよね。敢えてNPOがやることですか？という声が聞こえてきます。そうです。この講座はここ羽生市であれば市の広報誌に掲載されている内容と重なるところも多数あります。違うところと言えば講座料が安いとか、講師が地元の方より都内から出かけて来られる方が多いこと、そして少し誇りを持って言えるとすれば講師陣がユニークでレベルが高い方々がそろっていることと一カ所での講座としてはメニューが豊富ということでしょうか。カルチャースクールは主にメディア関係の会社がやっているものが多く、あくまでもビジネスとして成立することを前提に行ってますので、その点でも一線を画していると言えます。

２、コミュニケーションの場としての講座

長寿社会を迎えたこの時代で「学校」「仕事」「リタイア」というコースを終え、まだ十分残っている人生をどのように生きるかということは多くの60代以上の方々が深刻に考える課題でもあります。次のステージを創造的に模索する時期でもあるのです。この講座に集まる講師も受講者もそのステージのただなかに居てどこに軸足を置いていくのかを探求してます。だからここは単なるカルチャースクールとは違う豊かなコミュニケーションの「場」として成立するのです。教える人（高齢者）、受講する人（高齢者中心）の関係を超えて課題創出の共同性が生まれる場が成立すると言っても過言でありません。

当初、私どもNPOが志したものは「一つひとつの現実の問題は、弱っている人々、自己責任などというたわごとで高齢者や子どもたちにしわ寄せされていく」（設立経緯文）そのしわ寄せさせられた人々の課題を担っていくことでした。そしてその思いは現在も全く変わっておりません。これまでの歩みは、それらの課題を担ってくための助走期間ととらえております。なぜならば、私どもはこの羽生に何一つとして地脈、人脈を持ち合わせていませんでした。羽生市は都心へ1時間半もあれば通勤もできる地方小都市ですがいまだに地縁、血縁の繋がりが強い地域です。ここで一番肝心なことは第一に地域での信頼関係を醸成し安心して立ち寄ってもらえる「場」作りがまずは必要なことと考えました。

6月と12月に開催しているジャズコンサートもその一環です。丸2年間の活動でようやく少し地域の方々との信頼関係が築けつつあるように実感してます。そして何と言ってもこの「羽生の杜」が地域の方々に認知されてきていることです。

３、居場所作りの次へ ー子供たちの学習支援と子ども食堂ー

以上のような足取りを経て私どもは次年度より新しい試みにチャレンジしていきたいと考えております。それは、子どもたちの学習支援と食べて遊べる居場所作りです。私どもは高齢者と子どもたちの居場所作りを2本の柱として羽生の杜を設立しましたが2年間の活動を経過してようやくその機が熟してきました。この半年間で交流を深めてきた加須市で活動している「すくすく広場」という一般社団法人があります。ここは子どもたちの学習支援を中心に子ども食堂も取り入れて活動しております。特にこの法人の事務局長さんと親しくなりその働きに刺激を受けて法人の集まりにも参加させていただくようになりました。また、夏休みにはここの子どもたちが羽生の森を利用してくださり、より深い関係ができたことは、私どもにとっての大きな次のステップへの切っ掛けとなったといえます。私としては未知の世界に踏み出すことになりますが、身近にモデルケースが存在し、いろいろご協力いただけるとのことなので何とかできるところから始めてみようと思ってます。

プログラムや人材や財政的な確保など具体的な詰めはこれからですが、4月には立ち上げたいと考えてます。現在の講座を担当してくださっている講師や受講者のなかからもご支援くださるとの申し出をいただいております。それらの方々との協力で実現する道を切り開いていけるならば、講座の実績も単なるカルチャースクールでなかったことがご理解いただけるのではないでしょうか。何ができたかという結果もさることながらそのプロセスを大事にしていくことが肝要ではないかと思ってます。私どものような極めて緩やかな繋がりで成り立っている組織はトップダウンで物事を遂行するのではなく、具体的に関わっている各々の積み重ねの共同作業を通してことを進めていくことが望ましい姿だと思っているのです。

４、森のこと

さて、羽生の杜にとってもう一つの課題は森の整備があります。放置されてきた屋敷林の再生については丸山、桜田両氏が前号において詳しく報告してますが、その働きは今日も休むことなく続けられております。秋の台風で大木が9本根こそぎ倒れました。建物にかかる場所でなかったので、物的な被害がなかったのは幸いしましたが、倒木の危険にさらされている大木はこれら以外にも数多くあります。これらの木々を適正な高さに切ってさらに長生きできる木に育つよう手を加える必要があり、この冬季の期間に（木の再生を考慮すると冬季が適切）作業を進める予定です。いずれにしても森の整備は道半ばというところですが、人の手を加えながらも美しく管理された庭園ではなく子どもたちから高齢者まですべての人が安心して遊び憩える地域に解放された空間を目指したいと考えております。

業界屈指の個性的な講師陣と素敵な講座がいっぱいです！

親子体操　第４火曜日 11:00～12:00

講師：茗井香保里さん

親子体操は、大きな体の大人と 小さな体の子どもが体の大きさの違いを利用して運動します。親子での健康づくりのチャンスです！

【持ち物】汗拭き･動きやすい服装・運動靴
【対象】１歳半～未就学児と保護者

茗井さんは、秋草学園短期大学幼児教育課の教授や複数の大学の講師をされています。
子供から高齢者までそれぞれの世代に生きる力を大切にしておられます。

俳句/連句　第２水曜日 10:00～12:00 / 13:00～15:00

講師：鈴木了斎さん　（1948年生まれ）

連句とは、平安時代の連歌に始まり芭蕉が完成させ、現代に復興した「座の文学」です。コツを分かり易く講義し実作に挑戦します。講評と添削を丁寧にいたします。

【持ち物】ノート・筆記具・小型の歳時記

鈴木さんは、元グラフィックデザイナーでデザイン会社の経営者でした。俳句結社「麻」同人。連句結社「猫養会」副会長。受賞歴多数。長年、朝日カルチャーセンターの講師。

ジャズボーカル　第１木曜日　14:00～16:00

講師：冨樫勝彦さん　（1946年生まれ）

映画音楽やスタンダード曲を歌おう！
還暦からジャズを始めたプロシンガーが、歌詞の意味や曲の構成を優しく解説して歌い方のコツを伝授します。譜面や英語が苦手な方でもOK。誰でも歌えるようになります。

冨樫さんは、兄に伝説のジャズドラマー冨樫正彦さんを持ち、60歳からビューを果たされたジャズボーカリストです。
都内のライブハウスなどでも数多く出演中。

陶芸　第１土曜日 13:00～15:00

講師：岡田益五朗さん　（1953年生まれ）

自分で使うお皿や小鉢などを楽しみながら作ります。絵付けにも挑戦します。小学生から大人まで興味のある方はどなたでも歓迎です。

【持ち物】エプロン

岡田さんは、39年間高校の教員をしておられ、リタイア後、陶芸にとどまらずいろいろなモノ作りに挑戦されています。

吹奏楽　第２土曜日 14:00～15:30

講師：兼杉義之さん　（1946年生まれ）

ジャズ界のベテランがサックス・フルート・クラリネット等の吹奏楽器を優しく楽しくレッスンいたします。

【持ち物】希望の楽器。若干の貸出しも可。

兼杉さんは、高校時代はクリネット奏者。
その後、アルトサックスの魅力に取りつかれ、熊谷・太田・横浜などで、現在も精力的にライブ活動を続けておられます。

パズル　第３土曜日 13:00～14:30

講師：鍛冶真起さん　（1951年生まれ）

老若男女を問わず、楽しいパズルワールドへご案内します。脳トレにも効果がありますので面白パズルに挑戦してください！

鍛冶さんは、世界１３０か国で親しまれている「数独」の開発者であり、パズル会社ニコリの創設者です。
2006年にはNewsweekで 世界が尊敬する日本人100人として選出されました。

写真　第４土曜日 13:00～15:00

講師：廣澤章光さん　（1944年生まれ）

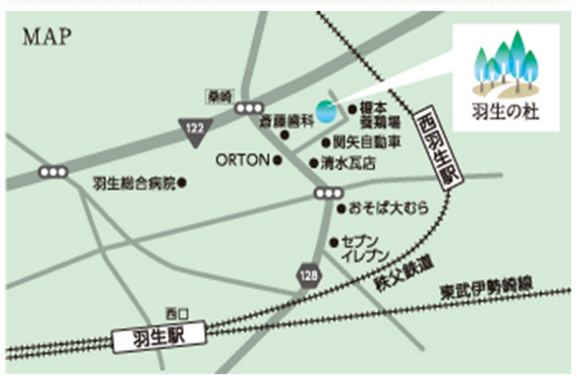
まず自分で写真を撮り、パソコンに取り込んで講評します。写真を撮ったときの気持ちなどをおしゃべりしながら解説します。

【持ち物】ご自分のデジカメやスマホ

廣澤さんは、新聞社の系列会社に就職しニュース取材から広告写真まで学ぶ。その後フリーの傍ら阿佐ヶ谷美術専門学校のデザイン科講師を長年務める。

カロム会
後日開催案内

１２世紀にエジプトで生まれ、世界中に伝わり広まっている元祖ボードゲームです。
子供から高齢者まで対等に遊ぶことができ、集中力や競争心を養える貴重なゲームです。



おいでよ！ 羽生の杜

羽生の杜

多くの高齢者は生きてきた実感と誇りを持っておられます。
そして多くの方々は、体験してきた物語や技能や知識などを、
他の方と共有したいと思っておられるのではないでしょうか。
羽生の杜の講座の基本的なコンセプトは「共有」です。
みんなで分かち合って楽しい時間を過ごしましょう！
力を抜いてヒョイと遊びにいらしてください。
心よりお待ちしております。

受講料:1回1,000円
（お茶orコーヒー付）

講座一覧 カレンダー

講座名	曜日・時間	9月	10月	11月	1月	2月	3月
親子体操	第4火曜日 11:00～12:00	26日	24日	28日	23日	27日	27日
俳句	第2水曜日 10:00～12:00	13日	11日	8日	10日	14日	14日
連句	第2水曜日 13:00～15:00	13日	11日	8日	10日	14日	14日
ジャズボーカル	第1木曜日 14:00～16:00	7日	5日	2日	4日	1日	1日
陶芸	第1土曜日 13:00～15:00	2日	7日	4日	6日	3日	3日
吹奏楽	第2土曜日 14:00～15:30	9日	14日	11日	13日	10日	10日
パズル	第3土曜日 13:00～14:30	16日	21日	18日	20日	17日	17日
写真	第4土曜日 13:00~15:00	23日	28日	25日	27日	24日	24日

●講座内容と講師紹介は裏面に掲載されていますのでご覧ください。複数講座受講も歓迎！
●受講の申し込みは随時受け付けていますが、各講座ごとの3日前までにご連絡ください。

お申し込みは右記に ➡ メール：tamura@hanyunomori.org ☎:048-538-4585（田村）
〒348-0043 羽生市桑崎1331-2 NPO法人 羽生の杜 （敷地内に駐車場有）

楽しい講座

俳句・連句

陶芸

写真

吹奏楽

パズル

ジャズボーカル

夏休み子どもイベント

変化する森

居場所、陣地、現場、場、つながり、絆……。

谷村徳幸（ＮＰＯさんまクラブ 理事長） http://www.3ma-club.com/

田村新理事長から「先輩ＮＰＯとして一言書け」との命令？でしたので厚顔無恥に誌面を汚させてもらいます。先輩ＮＰＯといっても、１～２年先行しただけで助言ができるような経験も力もありません。

私どもは、共生共育を理念にして、すべての人が笑顔でいられる居場所づくりを指向してＮＰＯ“さんまクラブ”を立ち上げました。“さんま”の言葉に、多くの方が、秋刀魚か人気タレントを連想され、何をやるＮＰＯかといつも怪訝な顔をされます。この言葉は、２～３０年ほど前、一部の教育学者や評論家によって使用された言葉です。小学生から“三間＝時間・空間・仲（人）間”がなくなっている、と警鐘を鳴らしたのです。三間が奪われ疎外されている状況は、今日、あらゆる年齢層で益々ひどくなっているように感じています。私どもさんまクラブは、地域の中で分断された関係を取り戻し、弱く小さくされた人たちを中心にすべての人々の居場所（三間）づくりをめざしています。とはいえ、そんなに多くのことはできていませんが……。余談ですが、最近は「手間」を加えて“四間”だそうです。名古屋辺りに“アインランド（島＝シマ＝四間）クラブ”を立ち上げてはいかがでしょうか（笑）（＝知る人ぞ知るジョーク）。

さて、その名古屋で先日、天皇制問題についての会議があり、三つの講演を聞きました。どれも聞きごたえのある有意義なものでした。先の衆院選の結果から明らかなように、日本全体が大きな曲がり角を曲がることを是としてしまったような状況で、全体としてドンヨリした雰囲気で会議は始まりましたが、終わってみると何か一つの光明が見えたような会議でした。少なくとも私にはそう思えました。

塩野谷さんの「絆としての天皇制」との分析も新鮮で大変興味深かったですが、菅孝行さんの「陣地戦」論には、滋賀県水口町での私たちの取り組みが、今の日本の情況の中で的外れではない活動だとの太鼓判を押してもらったような気がして大変励まされました。

菅さんは思想的な系譜をしっかりと把握した上で天皇制に対抗する「陣地戦」論を展開されたと思いますが、勉強をしない私は、グラムシと言われても“どんな虫？”くらいの反応しかできませんので、思想的な系譜を無視して、私なりの理解を述べます。菅さんは、“明仁天皇制を無化するために”（＝私の言葉）、「対抗ヘゲモニーを組織化しなくてはならない。……（その組織化は）陣地を単位に行われる。陣地は、古典的な資本主義社会と違って、職場を基盤に形成されるとは限らない。権力と資本のヘゲモニーが貫徹するすべての現場は、それに対する闘いを組織できれば、対抗ヘゲモニー形成の陣地となりうる。」と言います。そして具体的な陣地として「たとえば、保育所（幼稚園も？）・医療・高齢者介護施設・障害者介護施設などの現場、犯罪被害者（とその支援者）の会、元受刑者（とその支援者）の会、ＤＶ被害者（とその支援者）の会、不登校・いじめなど問題を抱えさせられた子どもと親たち（とその支援者）の会、性的少数者（とその支援者）の会、ひとり親家庭（とその支援者）の会、生活保護者（とその支援者）の会」などを対抗ヘゲモニーの具体的な陣地としてあげています。

菅さんは当然ＮＰＯさんまクラブやＮＰＯ羽生の杜を直接あげてはいませんが、資本や権力によって搾取・疎外され、弱く小さく貧しくされた人たちと共に生きようとする場は、対抗ヘゲモニー形成の陣地となりうることを言っていると思います。そして「陣地の中に組織された連帯が、資本の恫喝や懐柔、権力の威圧や利益誘導に動じない共助・共生・相互配慮の関係意識を形成できた時、同時に、幻想の共同性に対する畏怖も親和も、行動の選択に影響を与えることができなくなる。」といいます。

羽生の杜や私どもＮＰＯの指向すべき活動が、資本や権力を意識しつつ、共生共育社会を形成（しようと）するなら、あらゆるものから完全に自由になる可能性を秘めていると、菅さんに確証された思いです。

閉塞状態に陥りかけていた私には、元気の出る講演会となりました。

羽生の杜もさんまクラブも、弱く小さく貧しくされた人たちの「陣地」として、つながりながら、刺激し合って一つひとつ着実に成長していきたいものです。

【羽生の杜と協力関係にある団体】

NPO さんまクラブ

すくすく広場 一般社団法人 すくすく広場

【編集後記】

「羽生の杜通信」6号をお届けします。年に3～4回の発行を目指してますが、残念ながら予定通りになってません。今号には当法人の理事で立ち上げ当初から強力なアドバイザリースタッフとして関わっていただいてきた谷村さんに原稿を依頼しました。いまの日本社会におけるNPOの基本的な立ち位置を示していただきました。ありがとうございました。

羽生の杜は活動を開始して本年10月から3年目に入りました。新しく物事を立ち上げ実行していくことの大変さを痛感してきた2年間でした。他方で多くの方々に支えられて明らかに一歩一歩前進していることも実感してます。ここでの活動はいまだ試行錯誤のなかにあります。私としては、当面の課題を進めていくその活動を通して人との出会いを大事にしていくなかで、方向性が見えてくると確信してます。本年度より理事長に就任した私の役割は任期中に明確な課題を設定し、実施にむけたそのプログラムを最大化するすることです。NPO「羽生の杜」の設立の経緯からすればやむを得ないことではあったのですが、理事の大半が地元の人間でないことが一番大きなハンディになってます。と同時にアクティブメンバーは私を入れて3人だけです。丸山、桜田両氏は森の環境整備に集中しており、事務、広報、渉外などは私一人でこなしてます。とはいってもホームページの更新やイベントのチラシ、通信の制作などは千葉在住の私の友人である長尾さんがすべて担ってくださってます。感謝です。地元での賛同者も数人いらっしゃいますがまだまだ賛同者を増やして万全の体制作りがをしていくことが喫緊の課題です。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。（田村信征）